

2020年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 経営学部 経営学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

AO入試1期 小論文	1
AO入試2期 小論文	2
AO入試3期 小論文	3
推薦入試1期（公募制度・指定校制度） 小論文	4
推薦入試2期（公募制度） 小論文	5
外国人留学生入試1期 小論文.....	6
外国人留学生入試2期 小論文.....	7
一般入試D日程 小論文	8
出題意図.....	9

一般入試A・B・C日程につきましては、
「2020年度入試問題集
一般入試A日程・B日程・C日程
(全学部・学科共通)」をご確認ください。

● AO 入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

2015 年 9 月に、1国連総会で SDGs（持続可能な開発目標）が採択されて以降、政府や自治体、企業、非営利団体や大学などで、SDGs に関する様々な取り組みが展開されています。

SDGs（エスディーゼーズ）とは Sustainable Development Goals という英語の頭文字を取った略称です。

例えば目標 2 では、ロゴについているのは「2 飢餓をゼロに」です。日本のような先進国で平均的な生活をしていると、「飢餓」と言われてもちょっと自分の課題ではないな、と感じて飛ばして読んでしまいたくもなります。実際、日本企業で目標 2 を重視している企業は少ない状況です。

ですが、目標 2 の全文は、「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」です。「食糧安全保障」や「栄養改善」、「持続可能な農業」というキーワードも含まれていることが分かります。

「食糧安全保障」については、日本の食料自給率は約 38%、99%以上を輸入に頼っている食料もあります。「栄養改善」については、あまり知られていませんが、2500 グラム未満で生まれてくる赤ちゃんを「低出生体重児」と言い、日本の割合は先進国の中では多い方の 10%となっており、母親のダイエット志向が乳児に与える影響が心配されています。また、低所得層では野菜不足が確認されており、片寄った栄養バランスが懸念されます。さらに、「持続可能な農業」については、農家や畜産農家、漁業家の減少や、農薬や乱獲の問題が解消されていません。

目標 2 を「飢餓をゼロに」とだけ理解せず、全文を読むだけで、連想する世界が大きく広がります。食品、卸売（商社）、小売、化学（肥料や農薬）、産業機械、情報通信、運輸などの産業が広く関わっています。また、農林水産業に就く人を増やす取り組み、特に漁業で問題になっているような獲りすぎによる資源減少を予防するような取り組みも SDGs につながります。高齢者や乳幼児、貧困家庭の栄養改善につながるような取り組み（子ども食堂など）も直結するでしょう。

註 SDGs は 17 種類の目標から成る。課題文では 2 種類目の目標について述べている。

出典：日本経済新聞出版社／村上芽、渡辺珠子／SDGs 入門（2019）一部改変

【問題 1】 下線部について、以下の問題に解答しなさい。

- ① 下線部 1 は略称である。下線部 1 の正式名称を、解答欄に漢字で記しなさい。
- ② 下線部 2 の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題 2】 課題文は SDGs の目標 2 に関連して、解決すべき事項を挙げている。このうち経営者の観点で重要と考えられるものは何か。またその事項を解決するために、経営者は新たにどのような商品やサービスを提供したら良いか。

- ① あなたが重要と考える事項とその理由を、解答欄に 120 字以内で記しなさい。
- ② あなたが考える商品やサービスの具体的な案を、想定する業種・職種を含めて、解答欄に 480 字以内で論述しなさい。

● AO 入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

一般社団法人シェアリングエコノミー協会によると「シェアリングエコノミー（共有経済）とは、場所・乗り物・モノ・人・お金などの遊休資産をインターネット上のプラットフォーム（註）を介して個人間で、¹貸借や売買、交換することでシェアしていく新しい経済の動き」となっています。

カーシェアリングはよく、コイン駐車場などで専用スペースを見かけるようになって、車を持たない世代が増えていると言われる中で順調にビジネスが成長しているようです。ルームシェアリングは新聞記事やテレビのドキュメンタリー番組で取りあげられるくらいポピュラーになりました。

モノのシェアですが、特にファッション系のサービスで盛んになっています。余ったモノや不要なモノを貸したり、販売したりするのです。

空間のシェアは、民泊などの宿泊サービスや駐車場や会議室などを、それらを使用していない空き時間に貸し出しするサービスです。

スキルのシェアは個人が持つ技能や得意分野のシェアです。家事、ベビーシッター、ペットの世話などから IT 関連の技術提供やモノづくりなどまで幅広い分野があります。

特に日本においてシェアリングエコノミーが社会課題に影響を与えるだろうと思われる領域があります。その中の一つに地方創生があります。現在の日本の地方自治体は様々な問題を抱えています。少子高齢化に伴う人口減少は地方の²衰退を招く可能性もあり、自治体による公共サービスそのものの提供も人員的、財政的な問題から難しくなってくる可能性が出てきています。

地方自治体における課題は人や財政など「足りない」というものが多く、ここにシェアリングエコノミーの考えを導入することにより解決可能かもしれないのです。

註 プラットフォームとは、多様な製品・サービスの製造や提供に用いられる共通基盤のこと。

出典：日本経済新聞出版社／野口功一、シェアリングエコノミー協会／シェアリングエコノミーまるわかり（2017）一部改変

【問題 1】 下線部 1 および下線部 2 の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題 2】 課題文は、シェアリングエコノミーを導入することによって、地方の社会課題を解決できる可能性を、指摘している。その社会課題には、どのようなものがあるか。またその社会課題を解決するために、シェアリングエコノミーを導入して、どのような商品やサービスを提供できるか。以上についてあなたの考えを解答欄に 600 字以内で論述しなさい。

● AO 入試 3 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

普段の暮らしのなかで、クレジットカードや電子マネーなど、現金以外の手段で代金を支払う「キャッシュレス決済」をどれくらい利用しているだろうか。

ネットショッピングが好きな人なら、クレジットカードをよく使っているはずだ。最近では、たいていの公共料金の納付も可能になったから、クレジットカードの出番が前よりもずっと増えたという人は多いだろう。コンビニやカフェなどでの少額の支払いには、Suica などの電子マネーで支払うと決めている人もいるかもしれない。

しかし、日本全体で見ればキャッシュレス決済の普及はまだまだ進んでおらず、いまだに現金決済が主流の先進国は日本くらいだと言ったら驚かれるだろうか。

日本のキャッシュレス決済比率は、2015 年の時点で 18.4%に留まり、お隣韓国の 89.1%、中国の 60.0%、そしてアメリカの 45.0%とは非常に大きな開きがある。日本は圧倒的にキャッシュレス後進国なのだ。

実は今、このことに日本政府も強い危機感を持っており、国を挙げてキャッシュレス化に邁進していると言っても、過言ではない。

政府がキャッシュレス化を推し進める理由は、大きくは次の三つが挙げられる。

まず第一が、インバウンド消費の拡大による経済活性化だ。日本政府は現在、観光立国の実現のためにキャッシュレス環境の飛躍的改善を図り、2020 年までに、外国人が訪れる主要な商業施設、宿泊施設及び観光スポットにおける 100%のキャッシュレス化を強く促している。外国人観光客はキャッシュレス決済が普通だからだ。店舗のインフラ整備が急がれているのである。

第二は、現金のハンドリングコストの削減だ。紙幣にしても硬貨にしても、貨幣をつくって保管し流通させるには膨大なコストがかかる。国だけではなく企業にとってもそのためのコストは大きな負担となっている。

まず日本の貨幣（銀行券）の 1 年あたりの製造コストは、日銀によると約 517 億円かかる。そして私たちは、自分の銀行口座に貯めたお金を、ATM から引き出して使っている。ATM は、銀行や信用金庫に設置されたものに、駅やコンビニに設置されたものも含め、全国で約 20 万台ある。ポストン・コンサルティング・グループの推計によると、この ATM の維持管理コストは、現金の運搬にかかる人件費なども加え、年間 2 兆円にもものぼるといふ。キャッシュレス化によって、これらの負担を軽減したいというわけだ。

そして第三は、お金の流れをきちんと捕捉して、徴税を徹底したいということ。キャッシュレス化されればすべての取引が記録されることになる。言い方は悪いが、できるだけ税の取りっぱぐれがないようにしたいと考えるのは、国の立場からすれば当然のことだ。

取引のすべてが記録されるキャッシュレスでは、個人情報の取り扱いリスクが常に付きまとう。私たち利用者の購買履歴は、いまや「ビッグデータ」として、「AI」によって分析され、企業のマーケティングに使われるようになってきた。そうした企業の代表が、アメリカの巨大 IT 企業群「GAF A」で、彼らは私たちの個人情報を根こそぎ蓄積し、強欲なまでに自らの利益につなげようとしている。

出典：NHK 出版／岩田昭男／「キャッシュレス覇権戦争」（2019）P 3-7 一部改変

【問題 1】 下線部 1 および下線部 2 の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題 2】 キャッシュレス決済が普及すると、企業にはどのようなメリットが生じるか。課題文を参考にして、あなたの考えを論述しなさい。解答は解答欄に 600 字以内で記述すること。

●推薦入試1期（公募制度・指定校制度）

【小論文】（試験時間：60分）

以下の課題文は、職場において上司が部下を指導するときに、留意すべき事項について、述べている。これを読んで、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

これは新人時代に限った話ではないのですが、人を育てるうえで、必要なときにしっかりと叱ることと、そしてそれ以上にしっかりと褒めることがとても大事です。叱るスキルと褒めるスキルは、人材育成の中核スキルだと言ってもいいでしょう。

（空欄1）、叱ることも褒めることも、実は自信がない、というマネジャーが多いと思います。ポイントを整理しておきましょう。

褒めることが苦手という人は、特に多いと思います。

それは自分自身があまり褒められたことがないからでしょう。いえ、読者の皆さんが優秀ではないと言っているのではありません。日本の組織風土には「褒める」という行為が根付いていなかったからです。

どちらかと言えば、日本の組織は、できていないことを指摘して、改善や発奮を求める傾向が強かったのでしょう。「褒める」ということについて、マネジャーの立場にある方々と話をしていると、

「褒めるとそれでもういいと思ってつけあがる」

「褒めると査定で評価しなければいけない」

「そもそも仕事というものはつらいものなのだ」

といった意見が出てきます。

褒めてばかりでいられればいいのですが、上司として叱らなければならないときもあります。叱るということはエネルギーがいる行為です。誰だって好き₂好んで相手が落ち込んだり、うつむいたり、反発したりするようなことを言いたくありませんよね。でもそこで立ち止まってしまえば、問題は悪化するばかりです。叱るときはちゃんと叱る。これはテクニックというよりも上司としてのやさしさだと、私は思っています。

出典：日本経済新聞出版社／大久保幸夫／「マネージャーのための人材育成スキル」（2014）P45-50 一部改変

【問題1】 ①空欄1に入る言葉を、以下の選択肢から選び、解答欄に記入しなさい。

選択肢（なぜなら しかし つまり）

②下線部2の読み方を、ひらがなで解答欄に記入しなさい。

【問題2】 あなたが高等学校時代に指導を受けてきた経験に基づいて、課題文の主張を評価しなさい。論述に際し、以下の点に注意しなさい。第一に、課題文の主張を要約しなさい。第二に、この主張に対する賛否を記述しなさい。第三に、その理由を説明しなさい。解答は解答欄に600字以内で記述すること。

●推薦入試 2 期（公募制度）

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。

なお「教育困難校」とは、課題文の著者によれば、「高校教育の本来の目的である多彩な教育活動に困難が伴っている学校」(P.23) であり、「学力が低い生徒の通う高校、一般的には『底辺校』」(P.6) のことである。

【課題文】

どうしても就職しなければならない高校生は人手不足の業界で働くことになる。3K、4K と言われるような厳しい労働環境にあり、しかも労働の大変さに比べて低賃金だとわかっていても、それ以外の選択肢はない。道路や鉄道などの交通網、さまざまな建造物など日本の社会的基盤を支えている大きな部分は「教育困難校」の卒業生たちであると言っても過言ではない。

高校生の就職の実情を知っている者として危惧していることがある。それは AI と外国人労働者受け入れ拡大である。どちらについても専門家の議論が進められ、少子高齢化が進む日本では必要と、概ね受け止められているようだ。しかし、筆者は、どちらも当面は高校生の就職先を奪うと懸念している。

一例を挙げると、スーパーマーケット業界は学歴不問の企業が多く、中でもレジ担当は女子高校生が毎年相当数採用されていた。最近、店舗で見かける自動精算機は明らかに女子高校生の求人減らす。少子高齢化での労働力不足への対応だけでなく、労働の質や安全性の向上、さらに企業の利益向上のために AI の利用が不可欠であることは筆者も理解している。しかしながら、AI により、その時々で労働市場から押し出される高校生への代案を考えず、企業側だけの論理で導入を進めてはならないと強く言いたい。

外国人労働者の受け入れ拡大は 2018 年に₂ 慌ただしく決められた。日本人が働きたがらない分野での人手不足を補うためと説明されているが、彼らも必ず男子高校生の就職希望者のライバルになる。今の日本企業は自国の若者を育てていこうという意識より、より安く使い勝手の良い労働力を使おうとする意識の方が強いように感じる。

出典：朝日新聞出版／朝日奈なを／「ルポ教育困難校」P198-200

[問題 1] 下線部 1 および下線部 2 の読み方を、ひらがなで解答欄に記入しなさい。

[問題 2] 課題文の主張に対する、あなたの意見を論述しなさい。論述に際し、以下の点に注意しなさい。第一に、著者の主張を要約しなさい。第二に、著者の主張に対する賛否と、その理由を述べなさい。第三に、想定される反論と、それに対する再反論を述べなさい。解答は解答欄に 600 字以内で記述すること。

●外国人留学生入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文は「ことばとアイデンティティ」と題する文章である。この課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。

【課題文】

異国で学ぶ子どもたちがどのように母語を保つのか、という課題への取り組みについては、アメリカやカナダなどで先進的におこなわれてきました。しかし日本においては、学校教育の中で、そのようなことがおこなわれている例はあまり聞きません。

一般的に、言語はアイデンティティの形成と密接に、1関わっているとされます。子どもが自分の「言語」を確立できない状態になれば、その後のアイデンティティも不安定になるという報告もされています。

子どもたちの将来を見据えると、母語を保持し、母語の能力を伸ばすことが大切です。

2これは、その当事者家族だけの問題としてとらえるのではなく、外国に関係のある方々を受け入れ、彼らのマンパワーを期待した豊かな国づくりを実践している日本社会全体の問題です。社会全体として、彼らのアイデンティティを3育むことができる教育環境を整備しなければならないと、強く感じています。

出典：岩波書店／菊池聡／「〈超・多国籍学校〉は今日もにぎやか！」一部改変

- 【問題 1】 ①下線部 1 の読み方と下線部 3 の読み方を、ひらがなで解答欄に記入しなさい。
②下線部 2 が指し示す内容を、本文から 20 字以内で抜き出し、解答欄に記入しなさい。

- 【問題 2】 あなたは母語に加えて、日本語を習得してきたであろう。その経験に基づいて、課題文の主張を評価しなさい。論述に際し、以下の点に注意しなさい。第一に、課題文の主張を要約しなさい。第二に、この主張に対する賛否を記述しなさい。第三に、その理由を説明しなさい。解答は解答欄に 400 字以内で記述すること。

●外国人留学生入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の課題文を読んで、後の問題に解答しなさい。なおここで「学生」とは、「日本人の大学生」を指すものと考えられる。

【課題文】

世界の多様な価値観を理解し、地球規模でものを考えられなければ、持続可能な社会を担っていくのは難しいと言われる時代ですが、「学生たちが留学したがるな」という話は、大学の先生からもよく耳にします。もちろん、経済的な理由で行きたくても行けないという学生もいます。しかし「わざわざ海外に行かなくても、その気になれば国内でも外国人の留学生と触れ合えるから、それで十分」と考えている学生も少なくないようです。

確かに数十年前と比べれば、日本に来る外国人留学生の数はずいぶん増えました。日本を訪れる観光客も増加しており、町中で外国人の姿を見るのも珍しくなくなりました。観光地でない場所でも、こちらの語学力にお構いなく、英語で話しかけられることもしばしばです。外国人と交流するという側面だけを捉えれば、1 接触の機会間違いなく増えています。国内にいながらにして、コストパフォーマンスよく視野を広げられるようになったのですから、とても恵まれた時代には違いありません。

しかし、2 ホームグラウンドである日本国内で外国人に会うのと、海外で出会うのは同じことなのでしょうか。私には留学経験がなく、たまに海外出張や旅行に行く程度なので、偉そうなことは言えませんが、生活習慣でも食べ物でも、海外では過去の自分の経験が役に立たない場面にたびたび 3 遭遇します。国内の大学で、外国人と話をする機会に恵まれたとしても、学校の外に一歩足を踏み出せばそこは日本です。人にもものを尋ねたり、積極的に人と関わったりしなくても、生活に困ることはありません。

出典：岩波書店／名古谷隆彦／「質問する、問い返す」2017 pp101-102 一部改変

【問題 1】 下線部 1 の読み方と下線部 3 の読み方を、ひらがなで解答欄に記入しなさい。

【問題 2】 下線部 2 の問いかけに対して、あなたはどのように答えるか。あなたの経験を踏まえて、以下の点に注意しながら論述しなさい。はじめに、下線部 2 の問いかけに対するあなたの主張を明示すること。次に、その理由を説明すること。そして、その理由に関連したエピソードを挙げること。解答は解答欄に 400 字以内で記述すること。

●一般入試 D 日程

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の資料を読んで、後の問題に解答しなさい。

内閣府（2018）は、我が国の若者の意識と諸外国の若者の意識を比較した。調査対象者は各国満 13 歳から満 29 歳までの男女であった。各国の統計データに基づく人口構成比より、性別、年齢区分別に標本数を割当てた（表 1）。

たとえば日本人の男性で 13～15 歳の人は 89 名が、この調査に協力したことを示す。

性別、年齢区分別標本数の割当表

	日本	韓国	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	スウェーデン
合計	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
男性	13～15 歳	89	72	86	79	75	86
	16～19 歳	121	121	118	110	112	113
	20～24 歳	145	173	151	156	155	142
	25～29 歳	155	162	157	165	178	187
女性	13～15 歳	85	66	82	75	71	77
	16～19 歳	116	110	113	105	103	97
	20～24 歳	139	152	142	148	141	140
	25～29 歳	150	144	151	162	165	168

表 1 調査協力者の内訳

学校に通う意義について質問した。学校へ行っている調査協力者には「現在通っている学校について」、学校へ行っていない調査協力者には「最後に通った学校について」、回答させた。日本人の調査協力者の回答は、図 1 の通りであった。たとえば「課外活動に取り組む」という意義が、「なかった」または「ない」と回答した人の割合は 13.0（%）であった。

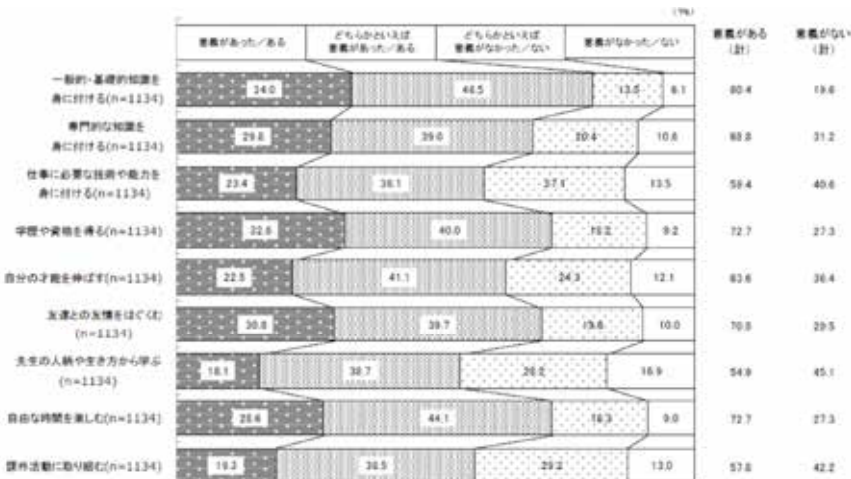


図 1 日本の若者が学校に通う意義

出典：内閣府（2018）／我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成 30 年度）

【問題 1】 ドイツ人女性で 16～19 歳の調査協力者が、ドイツ人女性調査協力者全体に占める割合を、表 1 に基づいて計算しなさい。計算過程を記すこと。単位は%を用いること。小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで算出すること。

【問題 2】 日本の若者が考える学校に通う意義について、図 1 に基づいて解答しなさい。「意義があった／ある」を選択した割合が多い選択肢から、順に 2 番目まで記しなさい。

【問題 3】 あなた自身は、学校に通う意義をどのように考えるか。図 1 の結果と比較しながら、600 字以内で論述しなさい。

●出題意図

AO 入試 1 期【出題意図】

自然環境および社会環境を保護し、改善していくことは、国際的な喫緊の課題である。この課題を解消するため、国際連合はSDGs(持続可能な開発目標)を定めた。この目標を達成するため、政府や企業はそれぞれの立場で取り組んでいる。

この問題ではこのような状況を説明する課題文を呈示し、これに対処するため企業が取るべき対策を提案させた。

出典：村上芽・渡辺珠子(2019)SDGs入門 日本経済新聞出版社

[問題 1]

基礎的な知識を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、提案の妥当性である。提案によって問題解決が期待できる程度を査定する。自ら課題を発見しその解決に向けて探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

AO 入試 2 期【出題意図】

消費者意識の変化や環境意識の高まりなどから、シェアリングエコノミーは「共有」という考えをもとに新たな経済構造を構築している。既にシェアリングエコノミーのプレイヤーとして世界的に有名な企業が存在している。

この問題ではこのような状況を説明する課題文を呈示し、これに対処するため取るべき対策を提案させた。

出典：野口功一(2017)シェアリングエコノミーまるわかり 日本経済新聞出版社

[問題 1]

基礎的な知識を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心を向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、提案の妥当性である。提案によって問題解決が期待できる程度を査定する。自ら課題を発見しその解決に向けて探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

AO 入試 3 期【出題意図】

日本では現金信仰が強く、キャッシュレス決済比率は諸外国と比べて低い。しかしキャッシュレス化には政府にとっても企業にとっても消費者にとっても利点がある。このような状況の中、政府はキャッシュレス化を推し進めている。たとえば今般の消費税の増税に際し、消費への悪影響を抑えるため、キャッシュレス決済の場合、ポイントを還元することとした。企業はこの機会を利用してキャンペーンを行っている。受験生も消費者の立場で、広告に触れたりサービスを利用したりしているであろう。

受験生には、このような時事的な問題に関心を持つこと、日常生活の身近な経験から社会問題へと関心を広げていくことを、期待している。そこでこの問題では政府から見たキャッシュレス化の利点を説明する課題文を呈示し、企業から見たキャッシュレス化の利点を考察させた。

出典：岩田昭男（2017）キャッシュレス覇権戦争 NHK 出版

[問題 1]

基礎的な知識を問う。

[問題 2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。課題文が主張する意味を正確に判断できる程度を査定する。課題文を理解するには、社会の動向に関心に向け、知識を獲得する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、考察の妥当性である。既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、新たな考えを産出している程度を査定する。自ら課題を発見し探究する思考力・判断力を評価する。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

推薦入試 1 期（公募制度・指定校制度）【出題意図】

社会人になって仕事を覚える際、上司から指導を受ける。上司は褒めることによって部下を動機づけたり、叱ることによって部下の行動を修正したりする。部下は上司の意図を理解することで、上司の指導を自らの糧に出来るであろう。

この過程は、高等学校における教員と生徒との関係でも、共通している。生徒は褒められたり叱られたりした経験を、次の学びへ繋げていくことが期待される。

この問題では指導に関する一つの考え方を表した課題文を呈示し、自らの経験に照らし合わせて評価させた。

出典：大久保幸夫『マネージャーのための人材育成スキル』日本経済新聞出版社、2014、pp. 45-50. ISBN-13: 978-4532113094

[問題 1]

基礎的な知識を問う。

[問題 2]

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、指導者との関係を同定する必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。知的文章として適切に表現している程度を査定する。主張を説得力をもって表現するための表現力を評価する。

推薦入試2期（公募制度）【出題意図】

企業はAIを利用し、外国人労働者の受け入れを拡大しつつある。AIを利用すれば、労働の質や安全性が向上し、企業の利益も向上する。外国人労働者は、より安く使い勝手の良い労働力となる。

その結果、高校生とりわけ「教育困難校」の高校生は、就職先が少なくなる。課題文は拙速なAIの利用や外国人労働者の受け入れ拡大に反対し、高校生の就職先に関する代案を考えることを、企業に求めている。

この問題では以上のような内容の課題文を呈示し、意見を述べさせた。

出典：朝比奈なを『ルポ教育困難校』朝日新聞出版，2019，pp.198-200。ISBN-13：978-4022950314

[問題1]

基礎的な知識を問う。

[問題2]

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、働くことに関して理解している必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

外国人留学生入試1期【出題意図】

日本では外国人労働者の受け入れが拡大しており、その子女もまた増加している。来日する時期が早い、つまり母語を学ぶ期間が短ければ短いほど、母語を喪失してしまう傾向がみられるばかりか、日本語や日本での学習が定着しないということにもつながっている。母語は第二言語の読み書き能力や認知面における発達の基礎であり、母語と第二言語は、相互に依存していると報告されている。子どもたちの将来を見据えると、母語を保持し、母語の能力を伸ばすことが重要である。

課題文はこのような社会課題に対して、日本社会全体として教育環境を整備するよう、主張している。

この問題では以上のような内容の課題文を呈示し、外国出身である解答者自身の経験に基づいて意見を述べさせた。

出典：菊池聡『〈超・多国籍学校〉は今日もにぎやか！』岩波書店，2018，pp.94-95。ISBN-13：978-4005008865

[問題1]

基礎的な知識を問う。

[問題2]

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、外国人にとっての母語と第二言語である日本語との関係を理解している必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

外国人留学生入試2期【出題意図】

課題文によれば、日本人の大学生は留学に対して消極的である。その理由の一つとして「わざわざ海外に行かなくても、その気になれば国内でも外国人の留学生と触れ合えるから、それで十分」と考えている学生も少なくないようである。確かに数十年前と比べれば、日本に来る外国人留学生や、日本を訪れる観光客は増加した。外国人と交流するという側面だけを捉えれば、接触の機会は増えている。しかしホームグラウンドである日本国内で外国人に会うのと、海外で出会うのは同じことなのであろうか。

課題文はこのように、日本人大学生が留学に消極的な姿勢に対して、疑問を投げかけている。この問題では、海外留学を志す解答者に、留学の意義について、自身の経験に基づいて意見を述べさせた。

出典：名古屋隆彦『質問する、問い返す』岩波書店、2017、pp.101-102。ISBN-13:978-4005008544

[問題1]

基礎的な知識を問う。

[問題2]

この問題では三つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の論点を踏まえている程度を査定する。課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、留学の意義の明確さである。留学を自身の問題として考慮している程度を査定する。解答内容には、留学するために検討した理由や、見出した意義が、反映される。

第三は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

一般入試D日程【出題意図】

大学に進学するにあたり、志望動機を自覚できていることは、その後の学修活動に影響を及ぼすと考えられる。

内閣府（2018）は、我が国の若者の意識と諸外国の若者の意識を比較した。学校に通う意義について質問した。学校へ行っている調査協力者には「現在通っている学校について」、学校へ行っていない調査協力者には「最後に通った学校について」、回答させた。

この問題では以上のような内容の課題文を呈示し、意見を述べさせた。なお課題文は図表を含んでいる。

出典：内閣府（2018）我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）

<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf-index.html>（最終閲覧日2020年2月17日）

[問題1] および [問題2]

図表の読解の技能を問う。

[問題3]

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、学ぶことの意義に関して理解している必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。